

飯館村は負けない一土と人の未来のために

◇自立した「までい」な村づくり 平成の大合併で市町村合併せず

「合併問題は結婚と同じだと思う。自分の人生を決めることにもなるから。しかも、結婚と違って離婚してやり直すことができない。だから、メリットとデメリットを比較して、判断を、といういい方には違和感がある。私は、結婚を得か損かで決めたくない。一緒にやっつけていける価値観を持っているかどうかで決めたい。自分は、飯館村が合併によって周辺化し、今以上の過疎化が進むことが一番心配だ。相手が、俺のところは裕福だから、俺と結婚すれば幸せになれるぞ、という考えなら嫌だ。気候と風土、歴史と文化が異なるもの同士、協力し合って幸せな生活を創っていこうというのでなければ。

飯館村は、貧しい村ながら、生活の質の豊かさを求める地域づくり、住民と行政の協同による地域づくりに、ずっと取り組んできた。自分たち（地域）のことは自分たちで決め、決めたことは責任をもって実行する。このことを、住民参加の村づくり、とりわけ、地区別計画づくりをつうじて学んできた。合併計画では、今後も飯館村の自治を保障できるよう、「地域分権。分散型の合併」にするし、そのための「地域自治組織」を置くことにするから、といわれている。しかし、合併特例法がいう「地域審議会」では、地域の自治権・決定権がほとんどないということをも村のディベートで学んだ。

飯館村が進めてきた住民参加の地域づくり、住民と行政（議員）との協同の地域づくり、これが今後もできるかどうか。また、そのためには、自分たちのことは自分たちで決められるよう、身近な意思決定機関を認めるかどうか。これが、私が結婚を決める一番の判断基準であるし、結婚相手の求める価値観でもある。」（飯館村・鹿島町・原町市任意合併協議会主催のシンポジウム、飯館村住民代表の渡邊とみ子さんの発言）（p95）

◇福島第一原発事故 土と結びついた暮らしが奪われた（酪）農で生きる人々の悔しさ

「その日、飯館村の酪農家全員、私のところに集めました。一大決断をしなければならぬから、一人ではなく、夫婦で来いと、その場で、皆で議論した結果、廃業することを決めました。その間も、牛乳の出荷は止められていたので、搾乳しては捨てるという、情けない仕事を続けていましたし、その餌代だって馬鹿になりません。廃業する以外に選択肢はなかったのです。ただし、実質的には「廃業」なのですが、あえて「休止」とすると、それをもとに東京電力も和解案を提示してくる可能性がある。だから、除染がされて「安全宣言」が出されたら、また酪農を再開しようという意味を込めて、「休止」としたのです。…私はリーダーでもあるので、みんなの牛を見送って、最後に自分の牛を処分する段取りを見つけました。奥さんたちは、牛が連れていかれるのを、泣きながら追いかけた。そして、「ごめんね、ごめんね」と牛に声をかけていました。酪農家として、これ以上、情けないことはありませんでした。」（p154）（千葉悦子・松野光伸著『飯館村は負けない』（岩波新書））

【のどかな田園風景に 除染土のプレコンパック（飯館村）】



【今も一部地域が帰還困難区域（飯館村）】



【飯館村】2017年3月31日 避難指示解除（長泥地区を除く村内）
人口（7月1日）5,564人 村内居住者1,324人（23.8%）、避難者4,240人
【ふるさと住民票制度】村に帰る人も帰らない人も、皆なが村民
【3月11日】「今日は、あたりまえをありがたいと思う日」に制定